

【今大会レギュレーション (TD通達/8.15訂正)】

1. 大会運営 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技規則・競技運営規程ならびに第52回全日本中学生ホッケー選手権大会実施要項による。
2. 競技規則 (公社)日本ホッケー協会2022年度6人制ホッケー競技規則による。
3. 競技時間 試合時間は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
ただし、予選リーグを6分間の4クォーター制とし、第1・第3クォーターの後に1分間の給水タイム、第2クォーターの後に5分間の休憩を設ける。
4. 時 計 試合時間は、テクニカルテーブルで管理する。
5. 競技方法 (1) 男女とも、3チーム総当たりの予選リーグを行い、上位各2チームが決勝トーナメントに進出する。なお、決勝トーナメントの組み合わせは、予選リーグ終了後に抽選会を実施し決定する。
(2) 決勝トーナメントにおいて規定の時間内に勝敗を決しないときは、延長戦は行わず、試合終了後ただちに「7」に定めるシュートアウト戦（以後「SO戦」とする）を行い、勝敗を決する。
6. 予選リーグの順位決定方法
 - (1) 勝ち点の多いチームを上位とする。勝ち点は、勝利チームに3点、引き分けチームに1点をそれぞれ与え、敗戦チームは0点とする。
 - (2) 勝ち点が同点の場合は、下記の順序・方式により順位を決定する。
 - ①リーグ戦における「得失点差」（「総得点数－総失点数」の差が多いチーム。）
 - ②リーグ戦における「総得点数」の多いチーム。
 - ③上記において、なお同点の場合、「7」に定めるSO戦により順位を決定する。
なお、同位チームが3チームの場合のSO戦は、同一チームが連勝したとき、そのチームを1位とする。（SO戦は試合終了5分以内に実施する）
7. シュートアウト戦（SO戦）※詳細については2022年競技規則及び2022年競技運営規程参照
 - (1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、公式試合記録に記載された選手の中から3名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
 - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム3名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い（計6回）、得点の多いチームを勝者とする。
 - (3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式（サドン・デス方式）により、再SO戦を行う。この

場合、選手はプレイ不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、SO戦を行う。ただし、攻撃を行う順番は変えても良い。

- (4) SO戦においてPSになった場合は、当該SO実施選手に限らず公式試合記録に記載された選手のPS実施が可能である。

8. 試合の中断と追試合

天候などやむを得ない理由により試合が中断された場合は、下記により試合を再開する。

- (1) 追試合の場合は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行う。
(2) 追試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。

9. チームベンチ

1 チームの編成は、監督1名、コーチ1名、手当てをする者2名、選手12名以内とする。

※選手は1~12の番号をユニフォームの定められた場所に明示する。

※エントリーの際、同一校の男女チームの監督を兼ねることはできない。監督とコーチの兼任は可とするが、男女それぞれのチームでJHAのチームスタッフ登録を済ませていること。なお、監督については教員または、部活動指導員であること。また、手当者もJHA チームスタッフ登録を済ませること。チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることができない。(但し、学校長、ベンチには入れない3年生等、TDの許可を受けた者はこの限りではない。このことは監督会議で確認する。)

10. フィールドへの立ち入り

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、ベンチ内にいる手当てをする者及び監督・コーチどちらか1名が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、手当てを行うことができる。(ただし、その際にコーチングをすることは厳禁)

11. 選手の交代

- (1) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。但し、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)
(2) 一時退場(イエローカード:2分以上)させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
(3) 選手の交代は、センターライン付近で行われる。その際、時間の停止は行わない。但し、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。

12. ルール確認《(1)~(5)2019 変更の再確認、(7)~(8)2021 新規変更、(6)2022 修正、(9)2022 追加》

- (1) サークル内にある防具により、おそらく入っていた得点が防がれた場合→PS
(2) サークル内における守備側のFHは、従来通り反則地点のサークルトップ(12m地点)に加え、サークル内のどの場所から再開することも可能となった。
(3) サークル4m以内での攻撃側FHの場合、FHが即座に行われない場合はサークル内であっても4m離れる。(常に4m離れようとする指導を奨励)
(4) PC終了の条件から「サークル外に2回出る」の要件を削除。

- (5) PCにおいて攻撃側のフライングは、罰則としてパスナーがセンターラインに戻される。
- (6) **【修正】** 守備者がPC用の防具を取り外す適切な機会がなかった場合、センターラインより自陣エリア内にいる間、ペナルティーなしで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、センターラインより自陣エリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。(11人制と同様の方法とする。)
- (7) GKの肘用防具については、覆わなくてもよくなった。
- (8) ブリーによる再開方法について、6人制についてもスティックの平らな面を軽く1回打ち合わせる(11人制と同様の)方法となる。
- (9) **【追加】** 落下地点でレシーブしようとしている選手に対し、4mより離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。(ただし、危険と判断された場合はこの限りではない。)

13. 確認事項

- ① 今大会では、選手確認の方法を昨年度と同様にする。そのため、チームは事前にシステムの「会員証一括印刷」より顔写真入りの会員証を印刷し、選手各自がネックホルダーに吊り下げて提示する。
(カラーまたは、白黒印刷は問わない。)
- ② 今大会では「スターティングリスト」の提出は行わない。試合開始15分前に次試合チームは、「次試合チームテント」で待機するとともに、監督がスターティングメンバー6名を担当競技役員に申告する。次試合チームテントでは、競技役員により選手確認、リングパス、服装・装具の点検を行う。
- ③ ユニフォームは必ず2着用し、試合会場(ベンチ)に持参すること。
- ④ 選手はすね当てを必ず着用し、ストッキングを上まであげて履くこと。膝は隠さないこと。
- ⑤ キャプテンは、上腕及びストッキングのどちらかにキャプテンマークをつけること。
- ⑥ ゴールキーパーは、ケガの防止のため装具を完全に着用すること。アンダーパッドは必ず使用すること。(チームの責任で遵守すること)
- ⑦ チームベンチは、「競技日程表」の左側のチームが青色のテントとする。
- ⑧ ペナルティーコーナーで使用される保護具は試合開始前に事前に担当TOに使用確認すること。
その際、使用する保護具に、感染予防のための共用を避けるため使用者を特定する印や名前などが明示されているかについての確認も行う。(コロナ禍における特別ルール)
- ⑨ 応援者は、大会実行委員会および中学校部会の指示に従うこと。(保護者など応援者からの抗議等には一切応じない。監督は、保護者による抗議等はできない旨を事前に説明しておくこと。)
- ⑩ 試合中、乱暴なプレイや審判員に対する誹謗等スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。なお、H28年度より、全チーム監督は「行動規範確認書」に署名し提出することとする。
- ⑪ 選手が負傷により出血したとき、頭・顔・心臓付近にボールが当たったときは審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じたときは直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。(2分以上の安静)
- ⑫ 棄権または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になった場合は、その試合は没収試合とする。
- ・予選リーグにおいて没収試合があった場合は、そのチームの試合をすべて没収し、残りのチームで順位を決定する。
 - ・決勝トーナメントにおいて没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。

- ⑬ 「負傷・事故報告書」の提出を課せられた者は、医師による治療後、負傷・事故報告書を TO または TD に提出する。本人への健康確認のうえ、次試合の出場を認める。試合が無い場合は、負傷・事故報告書を大会事務局に郵送すること。
- ⑭ 全日本中学生ホッケー選手権大会において、抗議制度はない。
- ⑮ 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルで署名すること。
- ⑯ その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TD の指示に従うこと。
- ⑰ 決勝トーナメントの組み合わせについては、予選リーグ終了後に抽選会を実施する。その際、決勝トーナメントの参加チームは監督・コーチまたはそれに代わる者(成人)が参加する。ただし、参加ができない場合には「委任状」を提出することにより、大会実行委員会による代理抽選を行うこともできる。

14.新型コロナウイルス感染拡大防止対策

別途、大会実行委員会が定める感染拡大防止ガイドラインに従うこと。